

東京i CDCリスコミチームによる 都民アンケート調査結果

別紙
2022. 4. 21

■ **調査方法**：インターネット調査

■ **調査対象**：東京都に住所を有する20代から70代までの者

■ **サンプリング方法およびサンプル数**：

性・年齢構成・居住地を東京都の人口比率に合わせた割当抽出。

10,000 サンプル。

■ **調査期間**：2022/3/15 ～ 2022/3/25

■ **調査項目**：

○感染防止対策の行動

○受診に関する意識や経験

○健康状態

○新型コロナに関する気持ち

○新型コロナに関する情報行動

○人間関係、偏見や差別経験

○ワクチンに関する意識や知識

○感染・対応についての経験

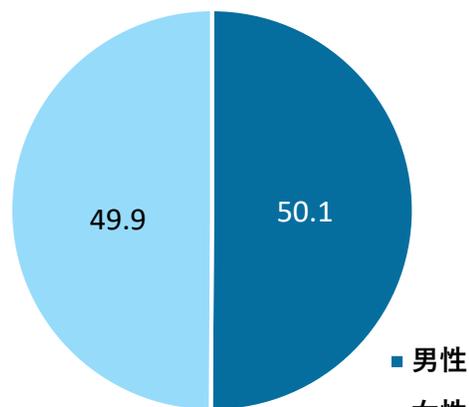
○仕事や暮らしの変化 など

有効回収票についての基本属性

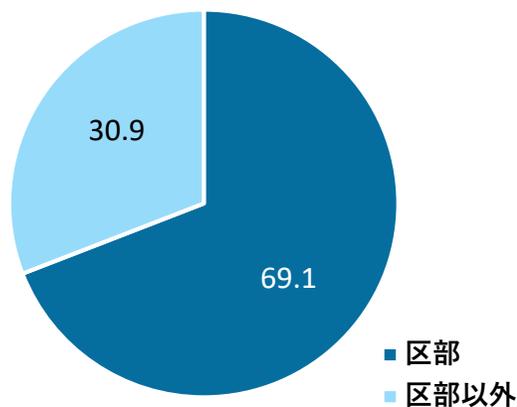
有効回収票 n = 10,000

(単位 %)

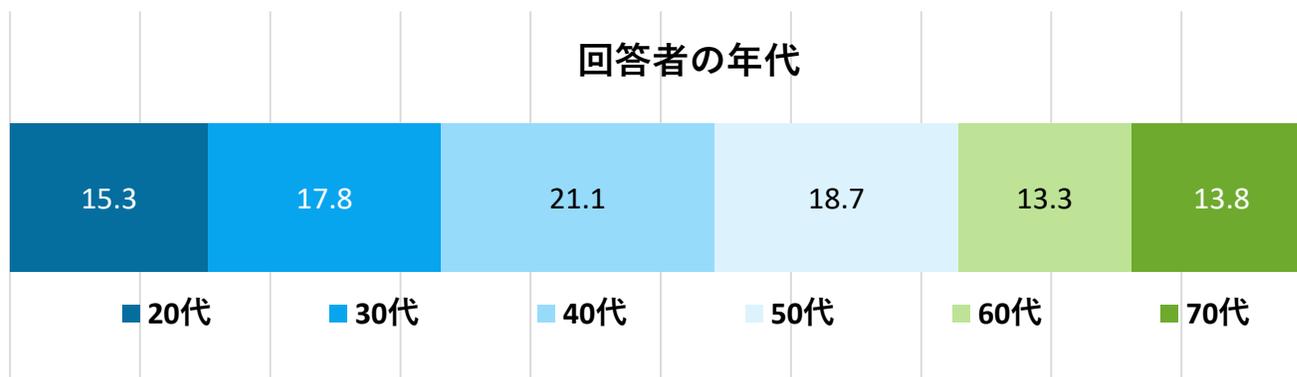
回答者の性別



回答者の居住地



回答者の年代

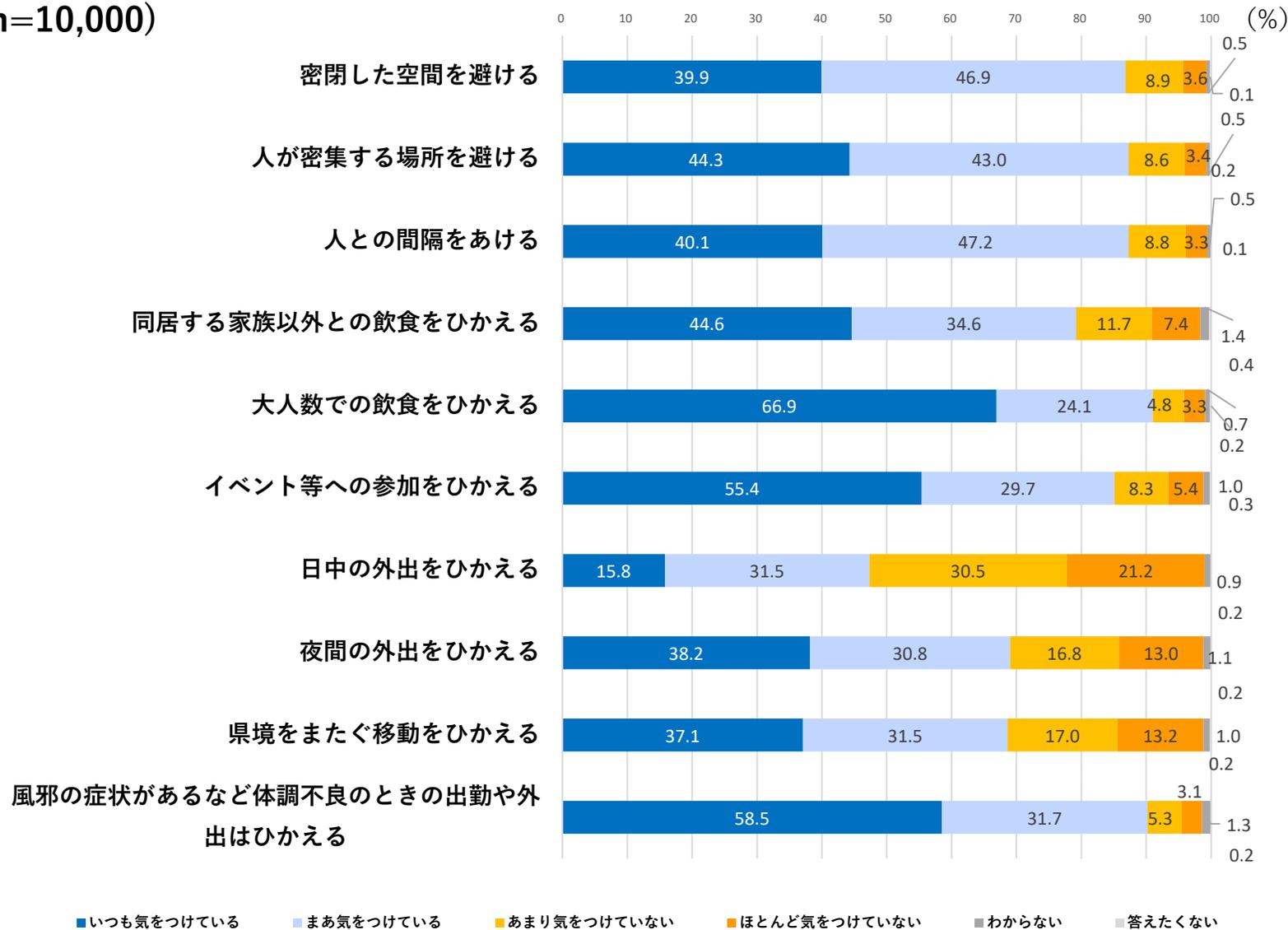


回答者の職業

| | |
|--------------|-------|
| 管理的職業従事者 | 7.5 |
| 専門的・技術的職業従事者 | 13.7 |
| 事務従事者 | 18.1 |
| 販売従事者 | 4.9 |
| サービス職業従事者 | 11.9 |
| 保安職業従事者 | 0.8 |
| 農林漁業従事者 | 0.1 |
| 生産工程従事者 | 1.7 |
| 輸送・機械運転従事者 | 1.2 |
| 建設・採掘従事者 | 1.1 |
| 運搬・清掃・包装等従事者 | 1.5 |
| 分類不能の職業 | 4.0 |
| 専業主婦・主夫 | 15.1 |
| 学生 | 2.8 |
| 無職 | 12.5 |
| 答えたくない | 3.0 |
| 全体 | 100.0 |

新型コロナの対策について、現在のあなたにあてはまるものを、それぞれ1つ選んで下さい。

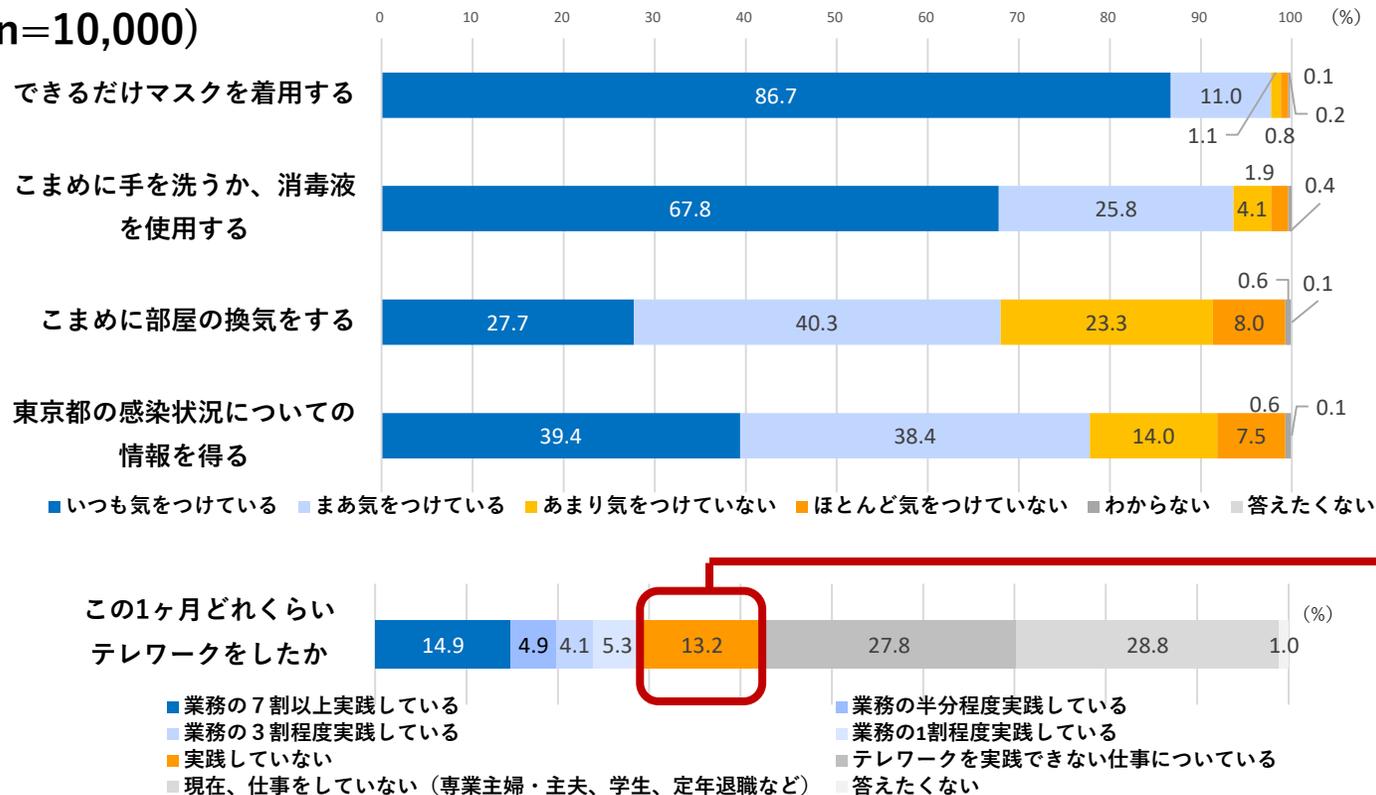
(n=10,000)



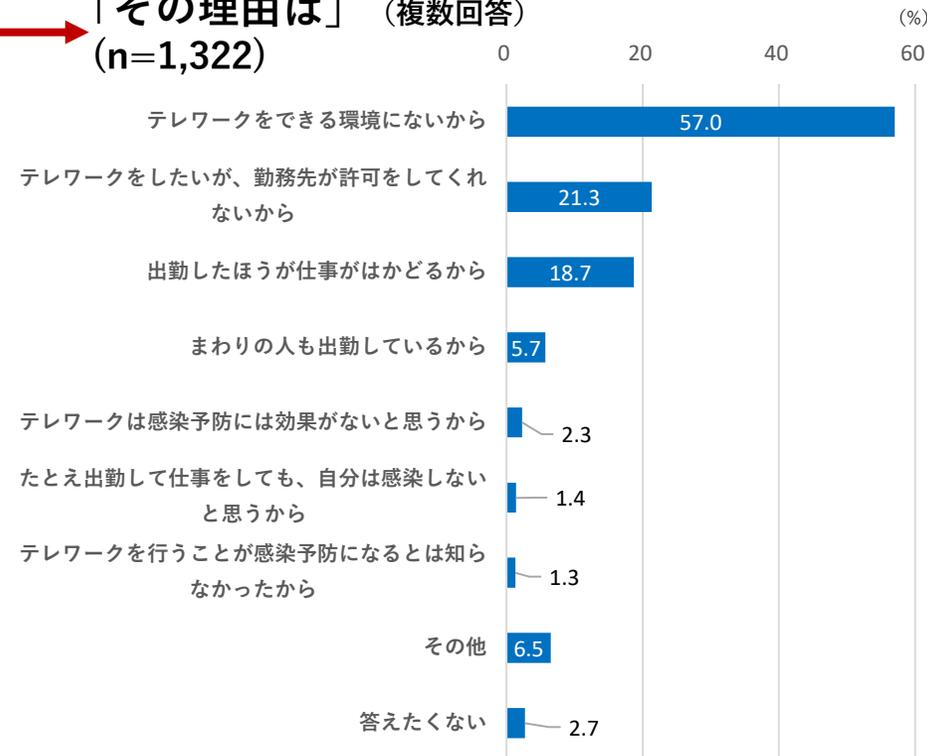
- ◆ 「密を避ける」、「大人数での食事をひかえる」、「イベント等への参加をひかえる」といった項目では約85～90%の人が「いつも/まあ気をつけている」と回答。2021年10月にも都民アンケート調査を実施したが、これらを気をつけている割合は2021年10月時点とほぼ同程度である。
- ◆ 「夜間の外出をひかえる」、「県境またぎの移動をひかえる」の項目では、気をつけている割合が7割であった。「日中の外出をひかえる」は約45%と、2021年10月調査と比較して5%程度減少している。
- ◆ 「体調不良時の出勤や外出をひかえる」では9割が気をつけていると回答。感染している場合にはひとにうつす可能性もあり引き続きの注意喚起が必要。
- ◆ 新型コロナの流行から2年以上が経過した時点でも、多くの都民が感染防止対策を継続していることがうかがえる。

新型コロナの対策について、現在のあなたにあてはまるものを、それぞれ1つ選んで下さい。

(n=10,000)



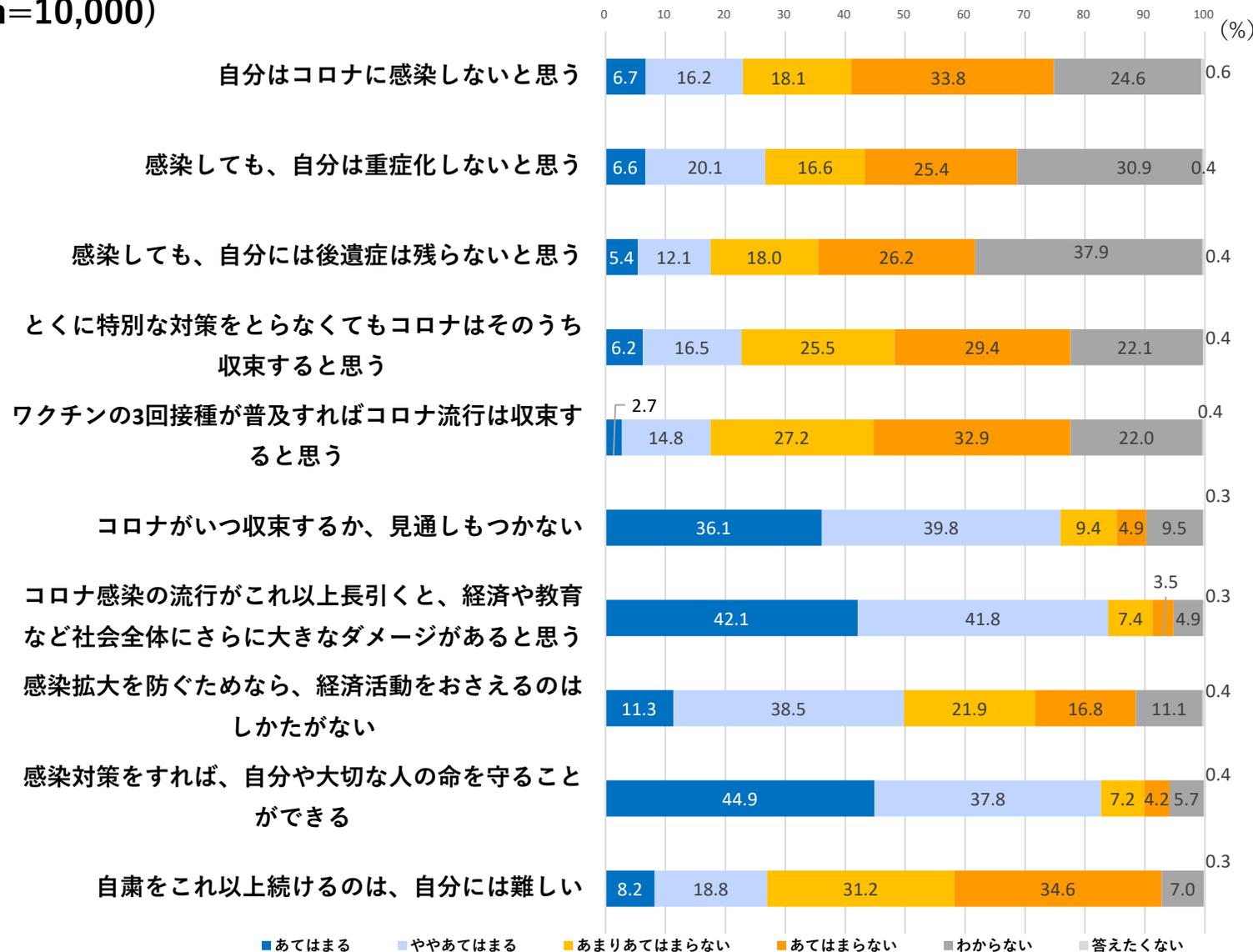
「その理由は」 (複数回答) (n=1,322)



- ◆ 多くのひとが基本的な感染防止対策を組み合わせながら続けている。こまめな換気については気をつけている割合が7割弱と、2021年10月時点から1割程度減少しており、あらためての注意喚起が必要。マスク着用、手指衛生については9割以上が「いつも/まあ気をつけている」と回答、この割合は10月調査の値と同程度。
- ◆ テレワークについては、該当者（「該当しない（テレワークができない仕事についている・現在仕事をしていない）」をのぞく）のうち、7割弱が実践している。「実践していない」理由としては、「テレワークをできる環境にない」や「勤務先が許可をしてくれない」が上位。テレワークが実践できる条件整備・環境整備等に対して、事業者がさらに積極的に取り組むことが求められよう。

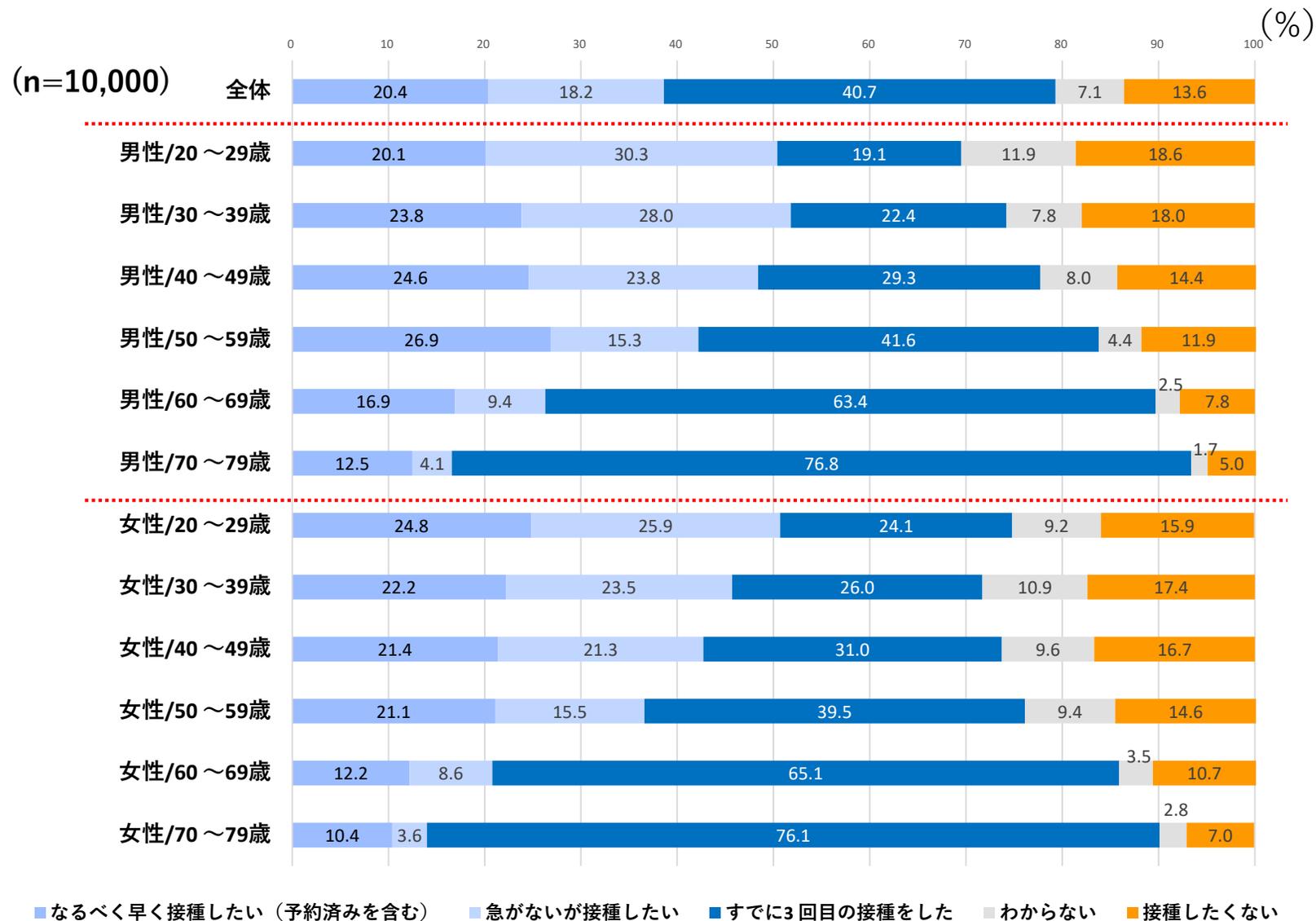
新型コロナに関して、あなたの気持ちにあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。

(n=10,000)



- ◆ 「自分は感染しない」「自分は重症化しない」「自分には後遺症は残らない」とする回答は2~2.5割前後。
- ◆ 「対策とらなくてもコロナは収束」「ワクチン3回接種普及でコロナは収束」と考える割合は2割程度にとどまり、「収束の見通しつかない」とするひとが8割近くとなっている。
- ◆ 8割以上が「コロナ流行が長引くと経済や教育などに大きなダメージがある」と感じている。「感染拡大を防ぐためなら経済活動をおさえるのはしかたない」に同意する割合(5割)は同意しない割合(4割弱)よりも高い。同意する割合は、2021年3月調査と比べると2割減少した。
- ◆ 8割以上のひとが「感染対策をすれば自分や大切な人の命を守れる」との気持ちを持っている。また、自粛について「これ以上続けるのは自分には難しい」に関して「あまりあてはまらない/あてはまらない」との回答が65%と、多くのひとが、収束の目途が立たないなかでも、コロナ禍での状況に適応しようとしていることがうかがえる。

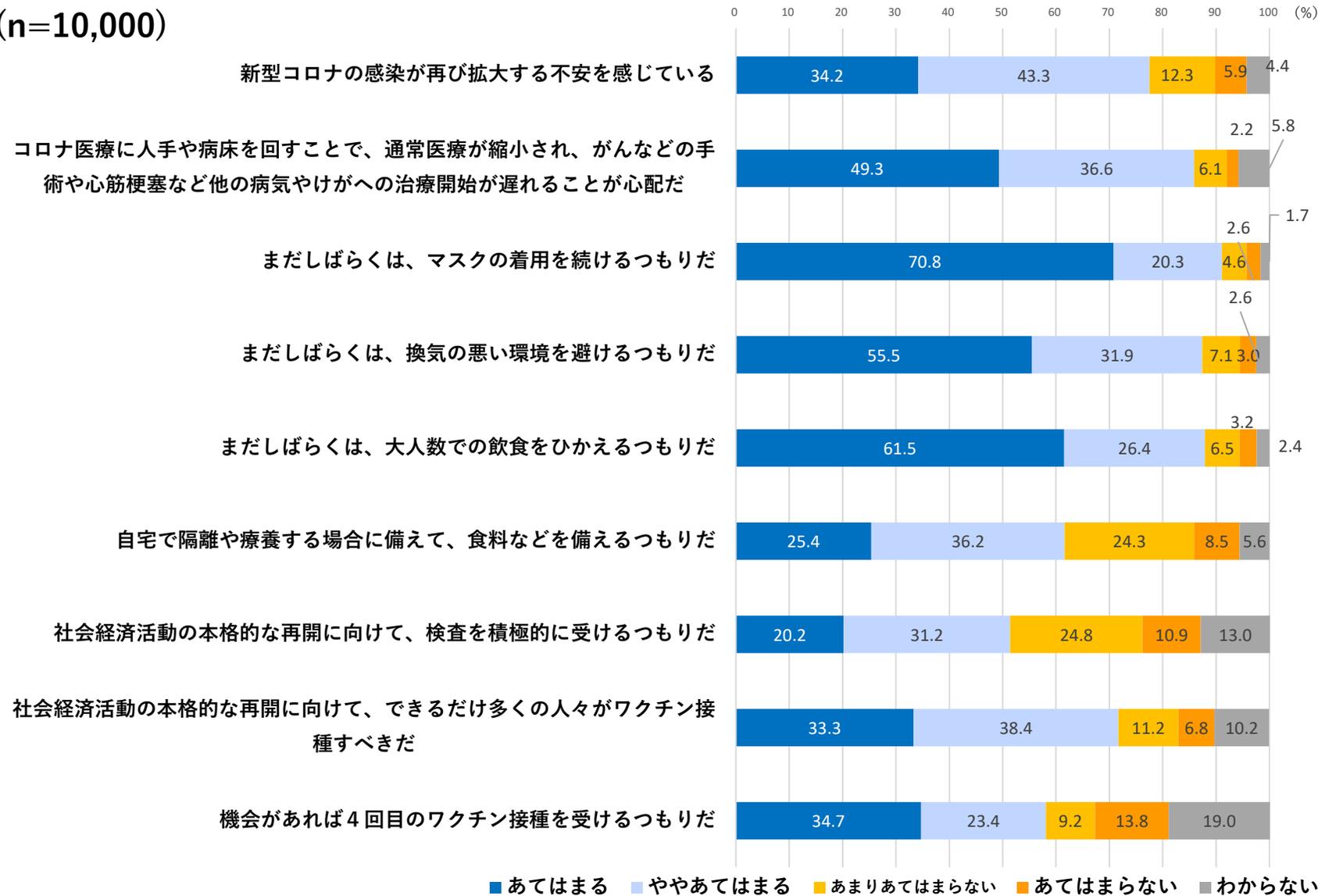
あなたは、新型コロナワクチンの3回目の接種についてどのようにお考えですか。



- ◆ 60代、70代では3回目接種が進み、接種済みの割合と接種意向のある割合とを合わせると9割前後になっている。
- ◆ 年代が低いほど「接種したくない」の割合が高くなる傾向が見られるものの、20代、30代でも「接種したい」がおよそ5割となっている。
- ◆ 50代以上では重症化する患者の割合が高く死亡者数も多くなることから、この年代への追加接種の呼びかけをさらに進めることが必要。
- ◆ 全世代を通じて、「急がないが接種したい」と考えているひとにいかにも早く接種してもらうか、また、「わからない」とするひとにいかにも接種意向を持ってもらうかが重要となるだろう。

新型コロナに関して、あなたの気持ちにあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。

(n=10,000)



- ◆ 「再拡大の不安」は8割弱、「通常医療への影響の心配」は85%以上のひとが感じている。
- ◆ マスク着用、換気、大人数での飲食ひかえについて、「まだしばらくは続ける」と回答した割合は9割前後となっている。多くの都民の、基本的な感染防止対策をこれからも続けようとする姿勢が見てとれる。
- ◆ 自宅療養などへの対策として食料などを備えるとの割合は6割を超えており、2021年10月時点と比べて1割増加した。
- ◆ 社会経済活動再開に向けて、検査を積極的に受けるとの回答は約5割。ワクチンに関しては、できるだけ多くの人々に打ってほしいと考えているひとは7割であり、2021年10月時点と同じであった。
- ◆ 自らの4回目接種について意欲を示す割合は6割程度であり、接種意向は年代があがるにつれて高まる傾向が見られる。

新型コロナに関して、あなたの気持ちにあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。

「機会があれば4回目のワクチン接種を受けるつもりだ」と「年代・性別」の関連

